



TITLE:

故川崎俊一君を悼む

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 故川崎俊一君を悼む. 天界 1943, 23(262): 123-124

ISSUE DATE:

1943-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168585>

RIGHT:

故川崎俊一君を悼む

On the late S. Kawasaki.

山本一清 *Issei Yamamoto.*

水澤の川崎俊一君が去る一月 19 日に死んだ。何とも言ひやうのない悲しさと惜しさを感じる。同君が昨年末に急性の肺炎にかゝつたといふことを聞いてから、一時は心配したが、10 日ばかり持ちこたへてゐる由の通知を受けたので、多少安心してゐるうち、一月 11 日の夜、危篤の電報に接し、急いで草津を出發、東行し、13 日の朝 10 時、水澤に着いた時は、池田技師から症状が一時危期を脱したと聞き、幾らか心を落ち付けたものの、尙、氣がかりなので、暫く滞在することにした。それから、素人眼には順調に経過しつつあるように思はれたが、19 日の夕刻に到つて、容態は俄かに悪化し、雪子夫人を始め、家族や近親一同に見守られながら、18 時 45 分、同君は絶命した。48 歳を一期として、邦家學術のため、働き盛りの身が、あえ無く散つたのである。——21 日に密葬、23 日午後に水澤町公民館で告別式があり、宮中より幣帛が下賜せられ、文相その他の弔辭と共に、約五百人の會衆が寒空を冒して之に参列した。又、その夜は近親友人たちによつて、22 時まで追悼會が催された。遺骨は 24 日遺族に守られて水澤を發し、25 日の夜、滋賀縣栗太郡の郷里に着、同 27 日老父母の膝下に於いて埋葬式が行はれた。

川崎君は明治 29 年一月 24 日誕生し、京都二中、廣島高師を経て、京都帝大の宇宙物理學教室の卒業生第 1 號である。卒業（大正 11 年）と共に、緯度觀測所の技師に就任し、木村榮博士を助けて、觀測と研究とを勵んだ結果、多くの論文を發表するに至つた。昭和 7 年から同 9 年まで歐米を歴遊し、グリニチ天文臺に於いて緯度の變動に關する研究を積んだほか、8 年九月にはリスボン市に於ける測地學地球物理學の國際同盟總會に出席したこともある。昭和 12 年學位を獲、同 16 年五月、木村博士退職の後を繼いで緯度觀測所長となつたのだつたが、それから 2 年にも満たないで世を去つたのは、惜みても餘りある。

川崎君の業績は夥しいが、中にも、觀測所に在任中の前後 20 ケ年間、天頂儀による緯度の連續觀測を遂行したことは、（池田技師が告別式上に於いて述べた如く）木村博士の長記録（40 年間）を除いては、世界に類の無いものである。又、川崎君は、大學卒業の頃は二重星を研究してゐたが、水澤に移つてからは毎夜の觀測の傍ら、緯度觀測の方法や整理計算の方法を批判研究し、下の如き

多くの論文を出してゐる。

- (1) Effect of the Direction of Wind on the Observed Latitude. [Proc. Imp. Acad. 4. (1928)]
- (2) 目盛りの十分ノ一を目測することに就て [日本天文學會要報 3. (昭和6-12-)]
- (3) Note on the Personality in the Estimation of Tenths. [J. J. A. & G. 9]
- (4) 天頂儀室の温度について [日本天文學會要報 4. (1932)]
- (5) Note on the Observation of Latitude at Greenwich. [M. N. R. A. S. 95.]
- (6) グリニチの緯度變化について, I. [日本天文學會要報 8. (1934)]
- (7) Corrigenda of the Reports of the International Latitudes. [O.A.A. Bull. 3]
- (8) グリニチの緯度變化について, II. [日本天文學會要報 10. (1934)]
- (9) 日照時間と緯度變化について. [〃 12. (1935)]
- (10) グリニチの緯度變化について, III. [〃 12. (1935)]
- (11) Effect of the Wind on the Observed Latitude at Mizusawa. [J. J. of A. & Geophys. 12. (1935)]
- (12) Additional Note on the Observation of Latitude at Greenwich [J. J. of A. & Geophys. 13. (1935)]
- (13) Variation in Latitude with the Moon's Position. [Proc. Imp. Acad. 11. (1935)]
- (14) 日射による緯度變化. [日本學術協會報告 10. (1935)]
- (15) グリニチの緯度變化について, IV. [日本天文學會要報 17. (1936)]
- (16) Remarks on an Apparent Lunar Effect in Time Observations. [M. N. 96]
- (17) On Minor Variations of Latitude at Greenwich. [Mem. Coll. Sc. Kyoto Imp. Univ., A. 20. (1937)]
- (18) タルコット水準器の性質. [日本學術協會報告 12. (1937)]

上記のうち, (14) によつて, 日本學術協會の賞牌が授けられ, 又, (17) によつて京都帝國大學から理學博士の學位が獲られたのであつた。

川崎君の研究業績のうち, 最も目立つたものは, 上記の論文一覽中にも見える通り, 氣象の諸要素が天文觀測結果に影響する點を究明したことであつて, 尙, この種の問題については, “多くの開拓を要する研究問題があるから, 一生の努力を續けたい” と, 常々から同君は漏らしてゐた。

川崎君は, グリニチ天文臺の實蹟に倣ひ, ククソン式の浮遊天頂儀を水澤の觀測所内に据えつけることにつき奔走した結果, 純國産の此の器械を遂に設置したのは昭和十五年頃であつた。又, 水澤に是非赤道儀屈折機を設置したい希望を年來抱いてゐたが, 最近この器械を東京五藤光學研究所から購入することに成功した。こうして, 同君の所長就任と共に, 愈々その理想を實現する時機に際會しつつあつたのである。

川崎君は本會の創立以來の會員で, 地方委員でもあり, 又, 天界のためにも美しい文筆を幾度も寄せた。其の主なものを挙げると:

- 天界第 13 號第 259 頁 バイナム氏のこと
 “ 第 56 號第 323 頁 雑念雑話
 “ 第 136 號第 265 頁 海外通信
 “ 第 223 號第 9 頁 サイ・フランク・ダイソンを憶ふ